

海外派遣留学プログラム月間報告書
(報告期間：2018/10/07～2018/11/02)

1. 勉学の状況

今月の半ばから新しく始まったコースはまた小さめの教室で 10 人弱の留学生たちと参加しています。Contemporary European Governance というコース名でヨーロッパ全体の政治的コミュニティ形成のプロセスをグループワークとセミナーを通して学んでいきます。このコースの印象としては、今までの中で英語が一番難しいことです。また、授業スケジュールがハードで 3 日連続が何回かあります。今月もキャッチアップに必死です。

また、来月から Ethics and Migration というコースが始まります。私は留学に行く前に履修プログラムを組んだときから一番楽しみにしていたコースです。スウェーデンは、現在は少し申請が厳しくなっていますが、ヨーロッパの中でも移民の受け入れを積極的に行っている国の一つで、このスウェーデンの移民政策に前向きな姿勢は人口減少が著しい日本が見習い、取り入れるべきだと考えています。留学していろいろな国の人たちと会話していると、いかに自分の育った国が‘島国思考’であるかを実感することがよくあります。例えば、日本人は日本製の素晴らしさに浸って、外国の製品を疑ったり、どうしても海外の国の社会政治経済事情に興味を持とうとしなかったり。私が一番ショックを受けたのは、スウェーデン人の友達と日本の WW II について話していた時に、私は広島原爆の被害が如何程だったのかを彼に話しましたが、すると彼は、世界の人たちが日本の酷い戦争犯罪として習った事件はいくつもあって、原爆の話でさえ怖いとは思えど日本が可哀想という思想には至らないということでした。私は半信半疑でその話を違う何人かの友達にしてみました。大体同じような事を言っていました。それ以来、自分たちの心身に染み付いた日本の姿と周りから捉えられている日本の姿とのギャップや日本人の無意識的なナショナリズム精神に恐怖を感じるようになりました。話が脱線してしまいましたが、日本が移民政策によってより外国人に開かれた国になれば、第二の開国時代のように、異文化をうまく取り入れて日本の進化につながると思います。インドや中国などのエネルギッシュな国に負けないためにも必要な政策だと考えます。そのことをアカデミックに学ぶことができる来月が楽しみです。

2. 生活の状況

先週末友達とストックホルムに出かけて冬のブーツと暖かいスキニーを買いました。こちらで服を買う時に気になるのはサイズです。トップスの袖やズボンの丈が長かったりします。スウェーデンでは色んな人種がいるので、アジア系のスウェーデン人に普段どうしているのか聞いたところ、背が低くてレディースのサイズが合わない人は子供用の服を買うとのことでした。またサイズといえば、最近友達から丁度サイズの合うアイススケートのシューズを貰ったので、冬にスケ

ートやるのを楽しみにしています。大学の裏に陸上のトラックがあって、それが冬にはスケートリンクとして整備されて、無料で開放しているそうなので実際に行ってみてこの報告書で写真を載せられたらいいなと思っています。

今月の初めにメガネを自分の自転車で踏んで壊してしまったので（自分で振り返ってもどうしてそんなことが起こったのか分かりませんが笑）、ダウンタウンのメガネ屋さんに行ってきました。普段はコンタクトなので最初はなんとかテープで繋ぎ止めたりして頑張っていました。海外でメガネを新調することもいい経験だなあと思い、新しいのを買おうと決意しました。メガネを買うにはまず視力検査をするところから始めました。日本のように上下右左で答えるのではなく、ABCで答える形式だったので、まるで発音試験させられているみたいでドキドキしました。ただ、店員さんが優しかったので無事に注文することができました。値段は前使っていた日本の安いブランドの2倍くらいで出来上がりは10日後です。来月は楽しみにしていることが多いです。

